ニュース専修
●「専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月1回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

創立130年記念事業資金募金寄付者芳名……3・4
受験生特集「専大生のチカラを生み出す学生支援・ゼミナール・キャリアデザイン・就職・国際交流・サークル・活躍する若手校友を紹介」……5〜9
石巻専修大学　就職活動本番に向け実践トレーニング……10
北海道短大　第40回ウインターフェスティバル開催……11

創立130年記念事業

サテライトキャンパス

向ヶ丘遊園駅前にオープン

創立130年記念事業の一環として準備を進めてきたサテライトキャンパスが小田急線向ヶ丘遊園駅北口前の「アトラスタワー向ヶ丘遊園」2階に設置され、1月14日、開所式が行われた。

▶ あいさつする日髙義博理事長・学長

阿部孝夫川崎市長が来賓あいさつ

日髙義博理事長・学長はあいさつで「駅前という地の利を生かし、大学のミッションの一つである地域貢献・社会貢献の場として活用していきたい。川崎市との連携の核となる場や、生涯学習の拠点としてコミュニティ・ビジネスに携わる人材育成を目的に昨年11月から開講している「KSアカデミー」長の徳田賢二経済学部教授による記念講演が行われた。5月から始まる第2期の講座は、サテライトキャンパスで開講される予定となっている。

▶ 徳田教授の記念講演

開所式終了後、社会人を対象としたコミュニティ・ビジネスに携わる人材育成を目的に昨年11月から開講している「KSアカデミー」長の徳田賢二経済学部教授による記念講演が行われた。5月から始まる第2期の講座は、サテライトキャンパスで開講される予定となっている。

サテライトキャンパスは、本学からの知的発信を基軸とした「地域貢献」機能をさらに持続的に発展させ、多様な事業展開を行うため、地域社会への新たな「知の発信拠点」として設置した。総合インフォメーション、生涯学習、公開講座、大学の教育研究成果の発表などを行うほか、地域と大学との交流の場としての役割も持たせていく。2月8日から28日まで、ネットワーク情報学部生の研究作品展示が行われる。

4月からの本格使用に先駆け、3月には開所記念講座（一般公開）を予定している（詳細は、本学ホームページなどに掲載）。

▲ 2階にサテライトキャンパス

▶ 受付

▶ スタジオA

▶ スタジオB

▼ 多目的ホール

サテライトキャンパスの概要

○所在地　川崎市多摩区登戸2130−2
○名　称　アトラスタワー向ヶ丘遊園
（地上23階、地下2階）のうち、2階の一部
○床面積　462.56㎡（139.92坪）
①スタジオA（117.04㎡／35.40坪　収容定員54名）
②スタジオB（62.67㎡／18.96坪　収容定員24名）
③多目的ホール（186.02㎡／56.27坪）

「海外特別研修」が実を結ぶ

ラオス国立大と国際交流協定

▲ 左から本学の飯沼准教授、大林国際交流センター長、ラオス国立大のスッコンセーン学長、ラマイ副学長、カンポン・ナマヴォンミサイ国際交流副センター長＝1月22日、ラオス国立大学で

専修大学は、ラオス国立大学（スッコンセーン・サイニャルート学長）と12月26日、国際交流協定を結んだ。アジアの大学とは8番目の締結で本学の協定校は15カ国・地域20大学となった。同大学は、インドシナ半島内陸部にある発展途上国であるラオスの高等教育・研究を一手に担う同国唯一の総合国立大学。今後、多彩な教育・研究交流が行われる。

同大学は1996年創立。キャンパスはラオスの首都・ビエンチャン特別市などにある。農、建築、経済経営、教育、工、林、法・政治、文、自然科学、社会科学の10学部から成り、学生数3万6000人余。施設内に日本語教育・相互理解のための機関としてJICA日本人材開発センター（ラオス日本センター）がある。

本学との関係は、経済学部国際経済学科の専門科目「海外特別研修」（担当・飯沼健子准教授）の現地研修授業が2005年から毎年、同大学で実施されており、これまで37人の受講生が現地を訪問。日本・ラオス間の学生交流が活発に行われ、成果を生んだ。05年11月には同大学のトゥイエン・ドンヴァン国際担当副学長（当時）、現在副学長のラマイ・ピパカヴォン氏らが本学を訪問し、日髙義博学長らと懇談。昨年8月には本学の人文科学研究所員8人が同大学を訪問し、スッコンセーン学長らと懇談し、協定内容を確認し合った。

多彩な教育・研究交流に期待

協定の内容は▽勉学と研究のため訪問する学部生ならびに大学院生の交流▽研究、教育のため訪問する教職員の交流▽学術文献ならびに学術情報の交換▽学術共同研究▽学生グループのための特別な短期学術プログラム――となっている。

ラオス国民は親日的で、同大学には日本への留学や学術交流を望む学生や教員が多いが、その機会は非常に少ない。協定をきっかけにして、交流の活発化が期待されている。

▶ 社会科学部のキャンパス

1月22日、大林守国際交流センター長、飯沼健子准教授が同大学を訪問し術交流が行われた。両校間で教員・学生それぞれの交流が続いている。

テレホンサービス
（お知らせ・緊急連絡）
0180-994-994
本紙へのご意見をお聞かせください
koho@acc.senshu-u.ac.jp

平成20年度卒業式・学位記授与式のご案内

■日　時……3月22日㈰午前10時30分開式
■会　場……日本武道館（千代田区北の丸公園）
※詳細は2月25日㈬の卒業発表時の掲示、ホームページでご確認ください。

次号は3月26日㈭発行予定です